

浄土の七高僧

～ 天親菩薩 信仰の門・人間の道 ～

◎正信偈の構造

帰命無量寿如来～南無不可思議光

依経段

法蔵菩薩因位時～是人名分陀利華
 弥陀仏本願念仏～難中之難無過斯

依釈段

印度西天之論家～明如来本誓応機

釈迦如来楞伽山～必以信心為能入

弘経大土宗師等～唯可信斯高僧説

南無阿弥陀仏（かの仏の願に順ずる）

念仏のいわれと救いの構造、信心はどんなもの？

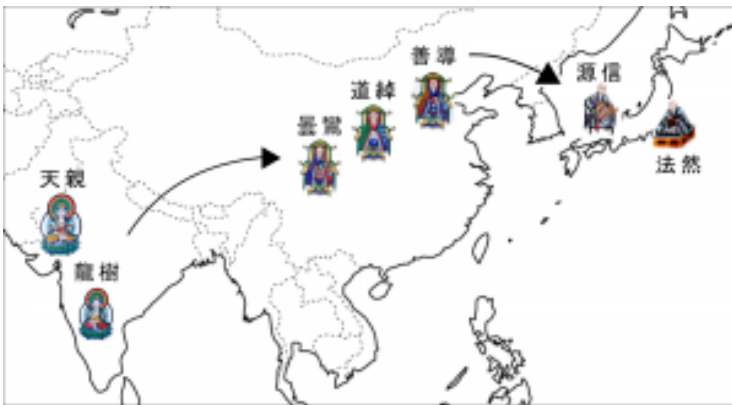
結誠（邪見橋慢の人には難しい）

浄土の七高僧が釈尊の意を正しく理解し、
 弥陀如来の誓いこそ時機に合ったものと明かした

七高僧の教えと浄土教を勧めてきた歴史

ただこの高僧の説を信ずべし

◎浄土七高僧を選んだのは親鸞聖人



1. 自分自身が阿弥陀仏の本願を信じ、念仏に生きようとされた方
2. 書物を残して浄土教の教えを広めていること
3. 念仏の教えについて、それまでにない独自の解釈を展開された方



天親菩薩の五念門

初めの四種の門は入の功徳を成就

(五念門) (功徳成就門)

1. 礼拝門 → 近門

阿弥陀仏を礼拝し、かの国に生ぜんとなすをもつてのゆえに、安樂世界に生ずる

「身業」をもつて阿弥陀如来を礼拝したてまつる

2. 讚嘆門 → 大会衆門

阿弥陀仏を讚嘆し、名義に随順して如来の名を称し、如来の光明智相によりて修行するをもつてのゆえに、大会衆の数に入ることを得

「口業」をもつて阿弥陀如来を讚嘆したてまつる

3. 作願門 → 宅門

一心専念にかしこに生ぜんとなすを願し、奢摩他寂靜三昧の行を修するをもつてのゆえに、蓮華藏世界に入ることを得

「意業」

心につねに願を作し、一心にもつぱら畢竟じて安樂国土に往生せんと念ず

4. 觀察門 → 屋門

専念にかの妙莊嚴を觀察し、毘婆舍那を修するをもつてのゆえに、かの所に到りて種々の法味樂を受用することを得

智慧をもつて觀察し、正念にかしこを觀ず

第五門は出の功徳を成就

5. 回向門 → 園林遊戯地門

大慈悲をもつて一切苦惱の衆生を觀察して、応化身を示して、生死の園、煩惱の林のなかに回入して遊戯し、神通をもつて教化地に至る。本願力の回向をもつてのゆえなり。

一切苦惱の衆生を捨てずして、心につねに願を作し、回向を首となす